

『幸せな世の中を目指して』

日野中学校 1年 吉川 煌人

「今年の夏は暑い。」ここ近年で地球温暖化が世界中で大きな問題となっている。人間の活動による温室効果ガスの増加によって「気温上昇」「異常気象」「海面上昇」などの悪影響を及ぼしている。

今年は梅雨がほとんどなく、7月初旬から猛暑が続き、最高気温が40度をこえる地域も出ている。この暑さの影響により、熱中症で倒れる人も増えており、病院に緊急搬送される人も多いとニュースで見た。小さな子どもから若者など年齢を問わない中、高齢者が運ばれる割合が高いようで、社会全体で考えるべき問題になっている。

近年は、一人暮らしの高齢者が多く、冷房を適切に使用できない世帯もあると聞く。経済格差によって冷房をつけたくてもつけられないといった問題も出てきているようだ。

僕たちはこの世に生命を受けて「人が人として幸せに生きる権利」をもっている。しかし、環境破壊によって生命が奪われかねない状況も出てきている。気温が上がれば猛暑が続く。また、雨が降り続ければ土砂崩れや浸水被害につながる。こういった自然の恐ろしさは、人間の想像をはるかに超えていると感じる。

しかし、この自然を破壊しているのは、我々人間ではないだろうか。森林伐採に、水質汚染、大気汚染など人間の活動によって引き起こされたことが、私たちの生活に悪影響を及ぼしていることは事実だと考える。

では、この状況を止めるためにはどうすればいいのだろうか。

僕は、一人ひとりの身近な努力の積み重ねが大切だと感じる。みんなで協力し、助け合うことで、改善できると信じている。

僕が小学校を卒業する前に「地域に恩返しをしよう。」という思いで、通学路に落ちているゴミをみんなで拾う活動を行った。そこで気づいたことは、プラスチックやビニールのゴミがたくさん落ちているということだった。ゴミが川へ流れて海にたどり着くことで、魚たちがそのごみを食べる危険性があり、生物の生息環境を破壊することにつながっている。

しかし、僕たち一人ひとりが、ゴミをしっかりと分別して、指定された場所で処理することで、川や海の水質汚染は防ぐことができると考える。一方で、ゴミの分別が面倒くさいと感じる人がいるかもしれない。僕は「自分たちの未来を守るためには、しっかりと分別をしていくべきだ。」と、多くの人に知ってもらいたいと思っている。

僕は小さいときから赤い消防車が好きで、大きくなったら人を助ける消防士になりたいと言ってきた。その思いは中学生になった今でも変わらない。近年の地球温暖化や自然災害の影響により、日本でも自衛隊や消防士、警察官などの人を守る仕事の役割は大きくなってきた。災害は世界のあらゆる所で起きていて、人間の力ではどうにもできないときもある。ただ、日本は人命を守ろうとする組織が他の国々よりも発展していると思う。

僕は、これからの生活の中で、今できることに努力して取り組み、少しずつ成長していきたい。そして、将来は消防士になって、たくさんの命を救いたいと考えている。

みんなが人間らしく幸せに暮らせる世の中を願う。